

2018 年度 政策方針 スローガン 「一致団結」

(はじめに)

昨年のスローガンは「一意専心」でした。リオ五輪のあと体操・新体操・トランポリンが新たな目標に向けスタートを切りました。男子体操では、白井健三選手が世界選手権、種目別跳馬・床で金メダルを獲得して力を見せてくれました。また昨年は女子の大活躍が目を見せました。体操では、村上茉愛選手が種目別床で63年ぶり金メダル獲得と歴史に残る結果を残してくれました。新体操も42年ぶりに個人種目別で銅メダルを獲得、団体総合、団体種目別でもメダルを獲得しました。女子トランポリンでは、史上初の個人種目での決勝進出、そしてメダル獲得と、待ち続けた「夢」が実現しました。ひとつひとつ積み上げてきたものがようやく実になり、日本人の堅実で決して諦めない姿勢が成績に繋がったと存じます。今回の活躍は東京五輪、更にその先に向けての大きな励みとなりました。これからの体操界の刺激になり、更に前進し進化する機会を与えてくれました。この機運を継続するため日本体操界全体で「一致団結」して取り組んで行かなければなりません。

(2017 年の成績と反省)

ここで昨年の目標と成績を振りかえってみましょう。男子体操においては、「個人総合・金メダル、種目別で金メダルと複数のメダル」が目標でした。これに対して結果は、個人総合・銅メダル、種目別跳馬と床金メダルのメダル3つという結果でした。種目別での金メダルは目標達成しましたが、メダル獲得者は白井選手だけでした。

女子体操においては、「個人総合第8位入賞」という目標に対して第4位と第6位、「種目別でメダル獲得」という目標に対して、63年ぶりに金メダルを種目別床で獲得し目標以上の結果を残しました。

新体操においては、「団体でメダル」獲得という目標に対して、団体総合で銅メダル・団体種目別で銀メダルと銅メダル、「個人総合第8位入賞」の目標に対して第5位、さらに個人種目別で銅メダルと全てにおいて素晴らしい躍進で目標を達成出来ました。

男子トランポリンの目標は、「団体・個人・シンクロと3種目でメダル」獲得でしたが、団体で銅メダル獲得、個人は第8位入賞、シンクロは第5位と健闘しましたが、全ての目標は達成出来ませんでした。女子トランポリンの目標は、「個人入賞・団体・シンクロメダル」獲得でしたが、個人・シンクロ銀メダル、団体も第4位と目標以上の成績を取めました。女子では3種目通して初のメダル獲得という快挙となりました。

2020 東京五輪では、目標以上の成果が求められます。弱点を強みに変えていくために、今までと異なった取り組みを実施し、国民の皆様の期待に応えなければなりません。

(2018年世界選手権での目標)

今年の世界選手権大会からもう東京五輪の予選が始まります。2020年に向けた目標を実現するためには非常に重要な一年であると認識しております。昨年の好成績から更に高い目標と高い志しで精進してさらに進んでいかなければなりません。

2018年の各世界選手権大会の目標は次のとおりです。

男子体操

団体総合金メダル、個人総合金メダル、種目別金メダルを含む複数メダル獲得（東京五輪団体総合出場権獲得）

女子体操

団体総合メダル、個人総合メダル、種目別メダル獲得（東京五輪団体総合出場権獲得）

新体操

団体総合メダル獲得、種目別メダル獲得、個人総合メダル、種目別メダル獲得（東京五輪団体総合出場権獲得）

男子トランポリン

個人メダル獲得、シンクロメダル獲得

女子トランポリン

個人複数名の入賞、シンクロメダル獲得

我々は昨年「2020年東京五輪」に向けて好スタートを切りました。このスタートダッシュを活かして更にレベルアップしこの勢いのまま一致団結して進んでいきます。

(一般体操)

2020年東京五輪におけるスポーツの関わり方が大きく変わる事が予想されます。子供から高齢者の方々のスポーツへの関心が高まるため、自分も参加したい、挑戦したいという意識が強くなると予想され、愛好者拡大のチャンスと捉えています。一般体操では、昨年からも高齢者が手軽に楽しめるスポーツのコミュニティ作りが私たちの社会の中で果たす役割であると認識し進めております。

そのため本協会は、継続して一般体操の「全国の組織化」、「一般体操指導者の育成」、そして「地域体操祭の開催」と体制の整備を進めて参りました。一般体操を通じて、国民が運動を楽しみ社会参加できる機会を提供することで、国民のスポーツへの関心、さらに体操への興味も増大すると信じ社会に貢献して参ります。

(アクロ体操)

本年8月ブエノスアイレス・ユース五輪では、体操・新体操・トランポリンそしてアクロ体操が国別の団体種目として実施されます。4月の世界ジュニア選手権大会に参加しアジア枠の獲得を目指します。認知度が高い欧州やアメリカとは違い、国内においてはまだ普及啓蒙が追いついておりません。そのため昨年、委員会の編成から強化・普及・審判と分類し、

組織としての役割分担を明確にして、他競技との連携が出来る状況まで整えました。選手数の拡大の一環として第一回の選手オーディションまで行いました。今後更に選手数の拡大、愛好者の拡大を図ることといたします。関係者一同が団結して取り組んで参ります。

（男子新体操）

現在の男子新体操はメディアに取り扱われる回数も多くなり、少しずつ注目も浴びてきました。特に団体競技の素晴らしいチームワークは見ていて魅了されます。しかし選手層は多くなりません。昨年からの方針「見るスポーツ」で終わるのではなく「するスポーツ」への変革が必要となってきます。子供の体操教室、体育教室あるいはタンブリング競技などとの融合も取り組んで参ります。本協会は数年前より男子新体操（団体）とアクロ体操との融合を推進してきました。各々の問題点の解決がなされていませんでしたが、昨年からの合同での取り組みやお互いの競技の利点を整理しつつあります。地域での普及発展のためには団体への復活が不可欠であります。様々なアプローチで男子新体操をさらに認知して頂くことも必要となります。昨年からの「ショースポーツ」としての発展に軸足を置くのか、「国際化した競技スポーツ」に変革していくのか、検討を続けていましたが、更に一步踏み込んだ政策で、全国で頑張っている男子新体操選手たちの活躍の場を増やせる環境整備を整えて参ります。

（組織ガバナンス・指導における暴力、セクハラへの対策強化）

2013年に「指導における暴力、パワハラ、セクハラ撲滅運動」に取り組み始めて5年目を迎えました。世界的にも昨年起きたアメリカ体操界のセクハラ問題も未だに収束する気配がありません。世界的にも難しい問題ではありますが、国内の中でも同じことが起きることも充分ありえます。そのためにも日々の指導の中で、指導者と選手と家族、関係者との良い信頼関係を築くことが事故、事件を予防するものと考えます。常にコミュニケーションが重要になると認識し、話の中で理解し合える環境作りに取り組んでいかなければなりません。本協会は「3つの基本方針」をもって対策に取り組んでいます。第一に「暴力、パワハラ、セクハラが発生しない地域全体で監視する環境づくり」、第二に「指導における暴力を無くす指導方法の享受」、第三に「永久追放を追加した罰則の強化」です。指導における暴力、パワハラ、セクハラが完全に撲滅されるまで、本協会と加盟団体で協力して厳しい姿勢をもって取り組み続けて参ります。

（体操ニッポンを支える地域の役割）

全国各地域で開催されている国民体育大会をはじめ、各種の全国規模の大会は、体操ニッポンの発展に多くの功績をもたらしています。これらの大会を志す選手の発掘、育成、強化に取り組んでいる指導者、各都道府県体操協会、各加盟団体、各地域の行政・学校・企業はじめとする関係者のご尽力によって体操ニッポンは支えられています。

五輪・世界選手権はじめ国際大会での日本選手の活躍は多くの国民や全国の子供達に夢と希望をもたらしています。また東京五輪事前調整宿地の誘致活動も動き出し、すでに海外チームの合宿がスタートしている自治体もごございます。スポーツでの友好を深め、地域の体操の活性化に一層役立てて参ります。

東京五輪を控え世界のスポーツ界も様変わりしています。本年 4 月から日本体育協会も日本スポーツ協会と名称変更し、スポーツ界の再編に舵を切りました。体操ニッポンも国際化の流れに対する対応能力を求められてきています。それだけに地域としての役割は一層重要になってきました。次の時代を見据えて日本体操協会・地域が一体となって、強い体操ニッポンを構築すべく一致団結して参ります。

(国際体操連盟の取り組み)

国際体操連盟の会長に渡辺守成氏が就任し、様々な場面で日本人会長の存在は「体操ニッポン」のプレゼンス向上に貢献しました。国際体操連盟は「過去の延長線上に未来はない」との認識のもと 2018 年のスローガンを「イノベーション」としました。そして積極的に「人類の多様性への対応」と「コンプライアンス」に取り組んでいます。FIG 渡辺会長はグローバルスポーツでは現状第 24 位の体操を、近い将来にサッカーを超えるスポーツに飛躍させようと尽力しています。日本体操協会も世界体操界の発展の一翼を担って参ります。

(むすび)

東京五輪まで 2 年半となりました。今何が出来るか、今何をしておかなければならないか。を再確認し、粛々と物事を進め、我々がどれだけの人たちに感動を与えられるか、支持して頂けるかはこれからの活動にかかっています。我々は常に体操のあるべき姿を求め続けて参ります。今年から東京五輪の戦いがスタートします。我々の今年のスローガンは「一致団結」です。全てにおいて持てる力を結集し前進していかなければなりません。どうか皆さんの力をお貸し頂き、また新しい体操ニッポンを築き上げていきたいと存じます。

以上、2018 年度公益財団法人日本体操協会政策方針を発表いたしました。皆さん、力を合わせて一緒に頑張りましょう。